

戦後・被爆
80年

NATO加盟国スペインに

被爆者を迎えて



女性平和基金
2024年招待者

核軍縮同盟(スペイン)
コーディネーター
マリベル・
エルナンデス

原水爆禁止日本協議会(日本原水協)が1月、スペインとフランスに「被爆者の声を広げ、核兵器禁止条約促進代表団」を派遣しました。スペインでの受け入れの中心となって訪問団に同行した、核軍縮同盟のマリベル・エルナンデスさんがレポートします。(写真提供:日本原水協)

あらゆる世代に届いた 被爆者の声

私たち核軍縮同盟は、広島・長崎への原爆投下から80年の今年1月中旬、日本原爆被害者団体の協議会(日本被団協)の

田中重光代表委員とともに日本原水協代表団をスペインに迎え、1週間にわたり各地で講演や集会を開きました。長崎の原爆を生き延びた田中重光さんの証言と、スペイン政府に核兵器禁止条約に

学校、自治体、国会… どこでも歓迎

首都マドリッドでは、国会議事堂内で国会議員とともに討論会、別の場所での集会には社会権大臣が参加し、大臣はスペインの核兵器禁止条約支

持は「時間の問題」と述べました。カタルーニャ州バルセロナでは市役所で市長による記念セレモニーが開かれ、州の首相と対外関係担当長官も歓迎

市民社会が動かす

核軍縮同盟は64の市民団体が結集し、核兵器が人間や生態系にもたらす影響について広く知らせ、政府に核兵器禁止条約参加をはたらきかけて



サラゴサ大学で。会場に入りきれないほど聴衆が集まりました。

迎えるなど、政府や議員との交流を広げました。大学や学校も訪問しましたが、どこでも関心が高く、サラゴサ州立大学の講演会は350人の会場が満席になり、数百人が入れないほどでした。つらい被爆体験を語る田中重光さんに、大学生や高校生が次々に質問。田中さんは未来の世代に多くの種をまいてくれたと確信し



スペイン国会の下院で開かれた国会議員との討論会。右から3人めが田中重光さん



訪問した学校で。子どもたちが田中さんに折り鶴をプレゼント

核軍縮同盟は64の市民団体が結集し、核兵器が人間や生態系にもたらす影響について広く知らせ、政府に核兵器禁止条約参加をはたらきかけています。今回の活動で得た成果はこれ以上ないほどの誇りであり、喜びです。訪問の数週間後、連立政権を組むスマールの議員がスペインの禁止条約参加に関する拘束力のない提案を下院に提出し、外交委員会でも議論されることになりました。大きな成果です。スペイン政府の立場は日本政府と同じです。禁

ます。
ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の代表の訪問にはメディアの反響も大きく、スペインの主要新聞エル・パイソやヨーロッパ通信をはじめ、地方紙、雑誌、ラジオやスペイン国営放送が田中さんを連日取材しました。「人類を救うために核兵器をなくさなければならぬ」とのメッセージが大きく広がり、その影響力は計り知れません。

止条約に署名しないだけでなく、オプザバーとして締約国会議に出席することも拒否しています。条約参加は簡単なことではありません。しかし、今回の訪問のおかげで、私たちは運動への支持を高め、活動を続けていく決意を固めることができました。真の変革は、市民社会の広範で積極的な支持にかかっています。
被爆80年の今年、被団協へのノーベル平和賞受賞を追い風に、共通の目標に向かって前進しましょう。



カツオのサテ

管理栄養士・料理家 金丸絵里加

③竹串に②を刺し、オリーブ油を中火で熱したフライパンに並べ入れ、ふたをし弱火で3分焼く。上下を返して再びふたをして火が通るまで2~3分焼く。④器に盛り、紫タマネギの薄切りと刻んだパクチー、くし形に切ったレモンを添える。
■1人分287kcal、塩分2.4g

サテとはインドネシアの串焼き料理。手軽に作れるようにアレンジしています。

材料(2人分) 刺身用カツオ180~200g、紫タマネギ½個、パクチー½束、レモン適量、オリーブ油大さじ½、A(ピーナツバター大さじ3、ナンプラー・ヨーグルト各大さじ1、ケチャップ・オイスターソース各小さじ1、カレー粉小さじ1、おろしニンニク小さじ½)
作り方

①カツオは塩(分量外)をふってしばらく置き、水気が出たらキッチンペーパーで挟んで余分な水気を取り、2割角に切る。②ボウルにAを入れて混ぜ、①を加えて全体に絡めるようにもみ込み、冷蔵庫で20~30分置く。



水引のアクセサリ

北海道北見市 浅野目有香
新婦人しんぶんがきっかけで始めた水引工作がもう3年続いています。出会いを作ってくれたしんぶんへ感謝です。



読者
ギャラリー

(☆風景、人物、動植物、9条グッズの写真をお寄せください。Eメールでも可)

編集部 から

1面の取材。地域に学校があること、地域の人の顔が見えること、言葉が交わされること。学校統廃合が各地で押し進められるなか、子どもの未来を支える地域と学校の可能性に希望を感じた。(り)

旬レシビ

旬レシビ